5月
May

WHO：急性期医療行動ネットワーク（ACAN）

ECO サービス（ECO：emergency, critical and operative care、緊急・救命・手術療法）をより強力に推進する「グローバル連合、急性期医療行動ネットワーク（ACAN：Acute Care Action Network）」構築を発表。

薬物依存の新しいリポジトリ

薬物依存専門家委員会（ECDD）によるリポジトリは、医療用および科学用の新規精神作用物質と医薬品に関する情報と報告書を集めた、オンラインコレクション。450 以上の物質から構成され、薬物依存に関する技術的なレポートやリソースを提供。

カンガルー マザー ケア（KMC）が、早産児の敗血症リスク低減

KMC が、低出生体重児や早産児の敗血症リスクを低減することが、医学雑誌で発表。スキンシップと母乳育児（母乳の提供）を組み合わせた出生直後からの KCM は全体の死亡を 25% 減少。

COVID-19 に関する研究の世界的優先課題策定

パンデミックから得た知識を活用することは、呼吸器パンデミック対策を強化する上で重要とし、公衆衛生・社会対策についてリストアップ。

車いすの提供に関する新ガイドライン

世界的に、質の高い適切な車いすへのアクセスは大きな課題で、複数の障壁が存在。WHO は、車椅子提供ガイドラインを発表。

「医療従事者」等を意味する 21 の用語の定義（多言語）

健康とケアの労働力に関連する WHO の公式な用語と、その定義。「health worker」「care worker」「health and care workers」など 21 の用語について説明。

伝統医学と補完医学を健康システムに組み込み

伝統医学と補完医学（T&CM：Traditional and complementary medicine）の相互補完は、健康増進と疾病予防に大いに役立っている。各国は、科学的根拠に基づいた T&CM と従来の医療との適切な連携が必要。

世界口腔保健状況報告書

世界の口腔疾患の負担、口腔健康のグローバルヘルス上の重要性、ライフコースにおける口腔疾患の影響について包括的に説明。

質の高い中絶医療サポートの臨床ハンドブック更新

WHO は女性と女児のために、医療従事者が質の高い中絶サービスを提供できるよう、ハンドブックを発表。情報やカウンセリングの提供、痛みの管理、避妊を含む中絶後のケアも含まれる。

最前線の医療施設は水、トイレ、衛生設備、電気なしで機能不全（新 WHO、UNICEF 報告書）

医療施設における WASH は感染予防と制御を可能にし、薬剤耐性の蔓延を抑制し、質の高いプライマリーヘルスケアサービスを提供できる。しかし、各国での対策は不十分。

西太平洋地域、薬剤耐性で 2030 年までに 520 万人が死亡する

WPRO が作成した「西太平洋地域における薬剤耐性（AMR）の健康と経済的影響 2020–2030」では、AMR の脅威を理解するための、より多くの質の高いデータを収集する必要性を提唱。

HPV 検査薬を追加認証：子宮頸がん撲滅を目指す国々に選択肢広がる

HPV 感染症の検査は子宮頸がん検診の

注）本サマリーは、WHO発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものですので、詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。

不可欠な要素。WHOは、ヒトパピローマウイルス（HPV）検査について、4つ目となるcobas HPVアッセイを事前認定リストに追加。

医療用モルヒネへのアクセスに関する新しい報告書

WHO、医療用モルヒネへのアクセスに関する報告書「Left behind in pain」を発表。モルヒネの安全なアクセスを改善するための行動を提示。

難民・移民の健康改善に向けて「ラバト宣言」を採択

「第３回 難民と移民の健康に関するグローバル協議」でラバト宣言を採択､「人道的支援が必要な環境にある難民やその他の人々の結核予防とケアに関する省庁間のフィールドガイド」を発表。

持続可能な開発目標 –3「すべての人に健康と福祉を」

国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」健康関連の目標達成の進捗が遅れている。「健康な生活とウエルビーイングのためのグローバル・アクション・プラン（SDG3 GAP）」に13の多国籍機関が署名。

「乳幼児の健やかな成長発達のためのケアの枠組み」進捗報告書 2018 – 2023

WHO、ユニセフ、世界銀行グループは「乳幼児の健やかな成長発達のためのケアの枠組み（フレームワーク）」を発表。どのような付加価値をもたらしたか進捗状況を報告。

薬剤耐性AMRの経済学に関する四者技術グループの設立

薬剤耐性（AMR）の経済学に関する4者構成技術グループ（QTG-EA: Quadripartite Technical Group on the Economics of Antimicrobial Resistance）（国連食糧農業機関（FAO）、国連環境計画（UNEP）、世界保健機関（WHO）、国際獣疫事務局（WOAH）で構成）を設立。

WHO：薬剤耐性AMRに関する40の優先研究課題を発表

AMRは依然として人類が直面するグローバル公衆衛生の脅威のトップの一つ。WHOは、薬剤耐性（AMR）と闘うための最も緊急な人類の健康上の優先課題に取り組むため、40のグローバル優先研究課題を概説。

ヘビ咬傷治療に関する初のWHOガイダンス

高品質の抗毒素は、ヘビに咬まれた人々にとって最善の治療法。「抗毒素製剤の品質向上のためのガイダンス」を発表。

多国間開発銀行とWHO：プライマリーヘルスケアサービス強化のための新しい投資プラットフォームを立ち上げ

低・中所得国（LICsとLMICs）における気候変動や危機に強い、必要不可欠なプライマリー・ヘルスケア（PHC）サービスへの投資と強化を目的とした「ヘルスインパクト投資プラットフォーム」を立ち上げ。。

ICD-11（国際疾病分類）とMedDRA（国際医薬用語集）の新コラボレーション

WHO国際疾病分類（ICD-11）とICH国際医薬用語集（MedDRA）を接続することにより、保険請求データベース、死亡率および罹患率統計、臨床試験、観察研究などの有害事象および転帰の分析を強化。

WHOの保健緊急事態への対応：年次報告書 2022

2022年におけるWHOの保健緊急事態への対応に関する年次報告書では、WHOの役割が、世界、地域、国レベルの緊急事態対応の主要な要素にわたって重要となっていることを概説。

ワンヘルス・ハイレベル専門家パネル年次報告書

ワンヘルス・ハイレベル専門家パネル(OHHLEP：One Health High-Level Expert Panel)が2022年次報告書を発表。多部門にわたるワンヘルス協力のためのパラダイムシフトを実現するために国や機関を導くための「ワンヘルス変革理論」を開発しガイダンスなどを提供。

5月のWHOファクトシート改訂項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。
https://japan-who.or.jp/factsheets/

・結核　・スナノミ症　・思春期および若年成人の健康　・貧血　・象皮症（非フィラリア性リンパ浮腫）
・アフリカトリパノソーマ症（睡眠病）　・喘息　・早産　・支援技術

6 月
June

髄膜炎の診断、治療、ケアのガイドライン

髄膜炎は依然として公衆衛生上の重要な問題であり、2030 年までに髄膜炎を撲滅するためのビジョンとロードマップが第 73 回世界保健総会で承認。

COVID-19 パンデミック時の必須保健サービスの継続性に関する第 4 ラウンド グローバル パルス調査

保健システムおよび必須保健サービスの混乱をよりよく理解するために、WHO は COVID-19 パンデミック時の必須保健サービスの継続性に関するパルス調査を実施し、139 の国・地域・エリアから得られたグローバルな知見を紹介。

COVID-19 パンデミック：国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）を終了

5 月 4 日、COVID-19 パンデミックに関する国際保健規則（2005）（IHR）緊急委員会の会合が開催され、PHEIC の終了を決定し、長期管理に移行する時期であるとも助言。

健康関連の SDGs に向けたグローバルな進展に、ローカルコラボレーションが鍵

「すべての人の健康な生活とウエルビーイングのためのグローバル・アクション・プラン（SDG3 GAP)」の署名 13 機関が、「What worked ? What didn' t ? What' s next ?」と題する新しい進捗報告書を共同で発表。

ヘルスケアにおける手指衛生に関する WHO の研究 2023–2030 : 要約

医療関連感染（HAI）は、医療サービスの質に影響を与え、患者の安全を脅かし、医療費を増加させる。エビデンスに基づく解決策である手指衛生での感染予防と管理につき発表。

ワンヘルス・ハイレベル専門家パネル、人獣共通感染症波及防止に関する新しい白書

OHHLEP（One Health High-Level Expert Panel）は人獣共通感染症の防止を強化することを求める白書を発表。アウトブレイクの封じ込め活動とスピルオーバーの防止を目的とした活動を区別することを推奨。

第 76 回 世界保健総会開催（5.21 〜 5.30）

本年の保健総会のテーマは「75 歳の WHO：命を救い、すべての人のための健康を推進する」。

エムポックス（サル痘）緊急事態宣言解除

エムポックス（サル痘）の多国間流行に関する緊急委員会において、この事象はもはや PHEIC に該当しないとしたが、既存の国の保健プログラムにエムポックスの予防とケアを統合し続けることを強調。

ポリオ : 緊急事態宣言を継続

現時点において、ポリオウイルスの国際的な拡散リスクは依然として国際的に懸念される PHEIC（Public Health Emergency of International Concern）であるし、暫定勧告をさらに 3 ヶ月間延長。

WHO ガイドライン : 体重管理に非糖質甘味料を使用しないよう勧告

WHO は、体重のコントロールや非感染性疾患（NCDs）のリスク低減のために NSS（non-sugar sweeteners）を使用しないことを推奨。

WHO : 大人と子供の炭水化物摂取量ガイドライン

炭水化物摂取に関する新ガイドラインは、食事性非感染性疾患のリスクを軽減するため、エビデンスに基づいた摂取についてのガイダンスで、さまざまな政策行動や公衆衛生介入に利用することができる。

注）本サマリーは、WHO発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものですので、詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。

WHO 環境大気質データベース（2023 年更新）

二酸化窒素（NO2）や PM10、PM2.5 など粒子状物質 の年平均濃度の地上測定データの、120 カ国以上、8600 箇所以上の人の居住地の大気質に関するデータベース。

薬剤耐性（AMR）進捗報告書

AMR（Antimicrobial Resistance）はグローバルな公衆衛生の脅威で、WHO は新しい抗菌治療法の開発にインセンティブを与えるための報告書を発表。

カンガルー マザー ケア、2 つの出版物

WHO は、スキンシップと母乳育児を含む救命技術を支援するグローバル・ポジションペーパーと実施戦略を発表。

組織における行動科学の従業員調査の利用：行動に関する洞察のためのツールを強化

公衆衛生人材、政策、プログラムにおいて行動科学を体系的に使用するための障壁と推進要因に関する一連の出版物。

WHO：感染症の脅威を検知・予防するグローバルネットワークを立ち上げ

国際病原体監視ネットワークは、病原体ゲノム解析による広範な疾病監視システムで、アウトブレイクを予防・対応し、治療法やワクチンを開発。

健康関連 SDGs の進捗停滞、緊急行動が必要（世界保健統計 2023）

近年、非感染性疾患（NCDs）や気候変動の脅威が高まっており、協調的で強化された対応を呼びかけ。

肥満の予防と管理に関する WHO の新しいフレームワーク提供

気候変動への対応：WHO 水・トイレ・衛生戦略 2018–202 の補足

WASH 関連のヘルスアウトカムに対する気候変動の影響に関する研究の拡大、環境監視の強化、媒介疾患の制御、気候変動、保健政策、統合水資源管理（IWRM）など主要重点分野を補足。

Health for All の提供のため、経済の方向転換の道筋を示すレポート

WHO の Health for All 経済学諮問委員会は、経済を再考し、社会、健康、経済のシステムや政策を設計する方法の中心に「人間と地球の健康」がなければならないという原則を押しだす。

健康上の緊急事態における「協調サーベイランス」のコンセプトを定義

WHO は、COVID-19 パンデミックやその他の大規模な健康上の緊急事態によって浮き彫りになった複雑な課題について、世界保健総会でサーベイランスへのアプローチ、協調を再考するコンセプトを定義。

COVID-19 のパンデミックに関連する超過死亡率を推定する方法

超過死亡率は、パンデミックの直接的および間接的影響の両方を考慮したより客観的で比較可能な尺度であるとし、世界の「COVID-19 パンデミックに関連する超過死亡率」を推計するために適用された最新の方法論を詳説。

WPRO コミュニティ参加研究イニシアチブの評価報告

WHO 西太平洋地域事務局は、複数国によるコミュニティ参加型研究を主導し、西太平洋地区 4 か国の研究チームによって実施された COVID-19 パンデミックにおける行動評価報告書を作成。

WHO 第 76 回 年次総会終了：資金調達や様々な健康テーマで合意

第 76 回 世界保健総会は多岐にわたる問題を取り上げ協議し、最終承認ステップとして、2024 – 25 年度予算や分担金の 20% 増額などが含まれる決議を採択、閉会。

6月のWHOファクトシート改訂項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。
https://japan-who.or.jp/factsheets/

・リンパ系フィラリア症　・青少年期の妊娠　・血液の安全と活用　・腰痛　・肺がん

7月
July

地域社会と協力し、日本のニーズに合った保健サービスを提供（長純一医師の死を悼む）

佐久中央病院勤務医であった長純一医師は、東日本大震災後、石巻への移住を決意し、晩年を現地の医療システムの再建と変革に捧げた。WHO は長純一医師の考えと行動を引き継ぎ、社会の変革に取り組む。

水・トイレ・衛生設備（WASH）へのアクセスを改善が、年間 140 万人の命を救うことができる

各国政府にすべての人に安全な WASH アクセス促進を要請、さまざまな WASH シナリオによる疾病への影響をモデル化する新ツールを発表。

WHO : LGBTQ の人びとの健康に関するガイドライン策定中

WHO、性同一性障害の多様な人々の健康に関するガイドラインを作成。介入におけるエビデンスと実施ガイダンスを提供。

WHO と HL7 : オープンな相互運用性標準の採用を支援するために協力

医療におけるデータと情報の相互運用性標準の採用につき、WHO と HL7 は、「オープンな相互運用性標準の採用を世界的に支援するためのプロジェクト協力協定」に署名。

史上初のマラリア・ワクチン、アフリカ 12 カ国に 3 年間で 1,800 万回分を割り当て : Gavi、WHO、ユニセフ

史上初のマラリア・ワクチン RTS,S / AS01 は GSK 社が開発・製造し、将来は Bharat Biotech 社が供給。 またオックスフォード大学が開発し、Serum Institute of India が製造する第二のワクチン R21 / Matrix-M にも期待。

ワンヘルスの定義と原則

ハイレベル専門家パネル（OHHLEP）が策定。

WHO : 革新的な結核のラーニングコース

WHO は、結核の国家戦略計画と結核疾患の体系的スクリーニングに関する e コースを開設、OpenWHO の End TB Channel に追加。

WHO とユニセフ : インフォデミック・マニュアルを発表

インフォデミックとは「正確か否かを問わず、デジタルおよび物理的空間における情報の氾濫」と定義される。誤った情報に対処するためのマニュアルを発表。

女性と女児が水と衛生の危機の矢面に : ユニセフ・WHO 報告

水汲みは危険にさらされている。『水、トイレ、衛生設備（WASH）の進捗状況 2000 – 2022 年 : ジェンダーに焦点をあてて』で発表。

WHO とユニセフ : 有害な食品マーケティングから子どもたちを守るためのツール

子どもたちへの過剰な食品マーケティングを制限するためのツールキットを発表。目的に合った法的措置を導入するための実践的ステップをガイド。

医療財政とユニバーサル・ヘルス・カバレッジの目標に対するデジタル技術の効果を評価（ガイド）

デジタル技術が保健財政の機能や業務にどのような影響を与えるか、そしてそれが UHC 目標に向けた進展にどのように寄与するか（あるいは寄与しないか）、評価エビデンスの作成の支援ガイド。

自殺予防のための農薬規制利用に関する指針

WHO 自殺予防の勧告とガイドラインに沿った、農薬自殺を防ぐための規制を活用するためのエビデンスベースなベストプラクティス指針。

注）本サマリーは、WHO発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものですので、詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。

動物における鳥インフルエンザの発生が続いている

近年、哺乳類の間でH5N1型鳥インフルエンザが検出されることが増えていることから、ウイルスがヒトにより感染しやすいように適応するのではないかと懸念され、対応行動をとるよう促す。

HRP（Human Reproduction Program）年次報告書2022

報告書では「すべての人のための性と生殖に関する健康と権利（sexual and reproductive health and rights）」の50年間の歩みと現状がまとめられている。

低出生体重児の推計：2000～2020年の水準と傾向（ユニセフ・WHO）

低出生体重児を30%削減するという2025年の世界目標（2012年比）は達成目前。

人工甘味料「アスパルテーム」に発がん性の可能性

アスパルテームの健康への影響に関する評価では、発がん性がある可能性がある「IARCグループ2B」に分類され、1日摂取許容量は40mg/kg体重と再確認。

WHO：脂肪と炭水化物に関するガイドラインを更新

最新の科学的証拠に基づき、総脂肪、飽和脂肪、トランス脂肪、炭水化物に関するガイドラインを更新。健康にとって炭水化物の質が重要であることも強調。

2022 WHO / ユニセフの予防接種率推計

DTPやDTP-3など、途上国におけるワクチン接種率は若干改善したが、パンデミック前の水準には戻っていない。

デング熱がアメリカ大陸地域でも流行

WHOの南北アメリカ地域でデング熱が流行。WHOはアメリカ大陸の国々に対し、渡航や貿易の制限は勧告していない。

HIVウイルス抑制に関するWHOの新ガイダンス

“HIVとmpox”、“HIVとCOVID-19”に関する最新情報。HIV検査と治療、予防ワクチンへのアクセスを確保する必要性を強調。

セルフケア・コンピテンシー・フレームワーク

すべての人は、到達可能な最高水準の健康を享受する基本的権利を持っているとした、健康と福祉のためのセルフケア介入に関するWHOガイドライン。3部構成となっている。

WHO：薬剤耐性結核の診断にターゲットNGSを使用することに関する速報を発表

薬剤耐性結核の検出を目的としたNGS（next generation sequencing）は、新しい診断技術で迅速かつ正確な遺伝子解析と耐性に関連する変異の検出オプションで、「WHO世界結核計画」は薬剤耐性結核の検出におけるNGSの臨床使用に関するガイドライン開発速報を発表。

WHO：性感染症の検査・診断改善のための新ガイダンスを発表

性感染症（STI）の発生は世界的な保健衛生上の大きな課題となっており「STIのための低コストのPoint of Care検査をより利用しやすくし、質の高いSTI診断薬の開発を促進すること」を目的にガイド。

WHO：多発性硬化症などの必須医薬品モデルリスト（EML）および小児用必須医薬品モデルリスト（EMLc）の新版を発表

多発性硬化症、がん、感染症、心血管疾患などの治療薬を含む必須医薬品モデルリスト（EML）および小児用必須医薬品モデルリスト（EMLc）の新版を発表。

The Big Catch – Up：2023年以降の必須予防接種回復計画

WHO、ユニセフ、Gaviワクチンアライアンスが、2023年以降に予防接種を再び軌道に乗せるための道筋を示す。取り組みを計画・実施する国々を支援する共同戦略説明書を発表。

7月のWHOファクトシート改訂項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。
https://japan-who.or.jp/factsheets/

・ギラン・バレー症候群　・A型肝炎　・D型肝炎　・E型肝炎　・HIVとエイズ　・B型肝炎　・乳がん　・大腸がん
・多耐性淋菌感染症　・ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）　・HTLV-1ウイルス　・多嚢胞性卵巣症候群
・関節リウマチ　・予防接種率　・C型肝炎　・性感染症